

学校法人日本社会事業大学（所在地：東京都清瀬市）

事業名

当事者に学ぶ視覚・聴覚障害者の生涯学習を促進する地域連携プログラム～セルフアドボカシーからクロスアドボカシーへ

主な連携先

清瀬市健康福祉部障害福祉課

主な対象

視覚障害者・聴覚障害者

事業の趣旨・目的

地域と大学が連携して、視覚・聴覚に障害を持つ方々のセルフアドボカシーを促進し、障害者相互の支援を越えて、別の障害者のグループの世界を体験・理解し、支援やアドボカシーまで目指す事業

事業実施体制

清瀬市健康福祉部障害福祉課・清瀬市ボランティアセンター
日本社会事業大学および盲ろう・視覚障害当事者・聴覚障害当事者の有識者からなる連携協議会で決定し、地域の障害当事者、障害を持つ大学生および支援者で事業を実施する

学習プログラムの内容

- ・地域で活躍する視覚・聴覚障害当事者の障害を活かした活動を一堂に会して発表。
- ・盲導犬ユーザーと聴導犬ユーザーの交流
- ・視覚障害当事者教師と聴覚障害当事者教師のシンポジウム
- ・地域の弱視の会の方と聴覚障害学生の研究会
- ・地域の中学校で、視覚障害と聴覚障害当事者がセミナー・クイズを行い、障害理解と別の障害を持つ人同士の連携を知ってもらう
- ・盲ろう者のための聴覚障害者等によるコミックのデータ化等々

研究の成果と課題

地域の別の障害をもつ障害者の交流を築いた。（お互いの交流はなかったが、各自視野が広がったとのこと。）
地域の学校に視覚障害・聴覚障害当事者がコラボレーションしたプログラムを提供し、地域のこどもたちと障害者の連携のモデルとなった。
盲人とろう者の共感、弱視と難聴の共感などあらたな発見があり障害者のアイデンティティーと誇りを促した。
（マイノリティ同士の連携をさらに進めていくにはどのような方法がよいのか引き続き検討する。）

その他研究の詳細など

その他研究成果はこちらをご覧ください▶
<https://self-advocacy.thmedia.jp/>



盲導犬ユーザーと聴導犬ユーザーの交流の様子